

木通もれ日

K o m o r e b i T s u s h i n

第47号

平成25年4月
つきだて花工房発
季刊誌

〒960-0903 福島県伊達市月舘町下手渡字寺窪7
つきだて花工房 TEL024(573)3888 FAX024(573)3887
つきだて交流館もりもり TEL024(571)1777 FAX024(571)1787
つきだて花工房ホームページ <http://t-hanakobo.jp/>

◎つきだて花工房は木もれ日のようなぬくもりと
やさしさを持ち続けるみなさまの公共施設を目指します。

福寿草、マンサク、水仙…
春早く開く黄色い花達
黄色はよるこびの色
氷に閉ざされた
季節の終わりに
よるこびを運んでくる
さあまた野へ出よう



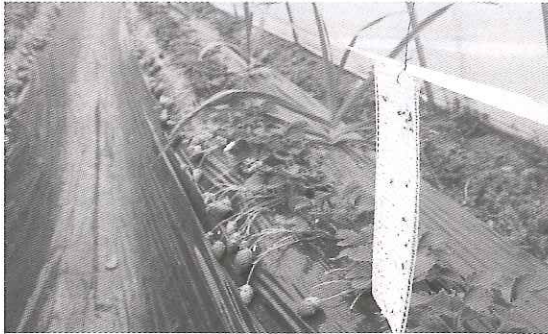
ハウスの中にはイチゴの白い花と甘い香り

野菜直売所「やさしい工房」が入っている交流館もりもりでは、3月の声を聞くと店内が甘い香りに包まれる。イチゴが並び始めるのだ。

イチゴはバラ科の多年草。今ではよく知られている話かもしれないが、食用にしているのは花托（カタク）と呼ばれる部分で、果実は表面に見えるタネのような粒々である。ビタミンCが豊富で、抗酸化物質であるポリフェノールの一種であるアントシアニンを含む。ビタミンCの一日の所要量は中くらいの大きさのもの5〜6粒でとることができる。選ぶときにはツヤがよく、ヘタがみずみずしいものを選びたい。

*

今回、「やさしい工房」などの直売所を中心に、スーパーなど様々なところで販売している加藤美さんの圃場を訪れた。



ニンニクが混植された畝。手前は虫取り紙

加藤さんは御代田地区で、暖房は使わずビニールを3重に張った6アール(約180坪)のハウスで、イチゴ「とちおとめ」を栽培している。11月初旬に苗を植え、2月中旬から6月頃まで収穫が続く。イチゴが実をつけるためには受粉が必要だ。ハウス内には借りているというミツバチの巣箱が設置されていた。

ハウスは高温・多湿で病害虫が発生しやすい。加藤さんのハウスではできるだけだけ消毒を少なくするため、虫除けの黄色いテープが張られ、虫取り紙が設置されていた。また端の畝にはネズミ避けのニンニクが植えられている。

「うちは完熟させて採んだ」

加藤さんの言葉のとおり、ハウス内はイチゴの甘い匂いに満ちている。「んでもこの匂いに誘われてハクビシンが入ってくるんだよ、どうか隙間から、隙間が見つかんねえとビニールをぶつあいて(破いて)入ってくるんだよ」震災の後、やはり売上は落ちた。「やさしい工房」を始めたとした直売所の売れ行きが芳しくないのだ。だが、加藤さんは次の展開を模索している。

「そのうちイチゴ狩りでもやっかと思うんだ、もりもりとタイアツプしてよ」



お客様ノオト

このノートはたくさんのお客様の笑顔と思い出が詰まった、つぎだて花工房の宝石箱です

ご縁は太く長く

東京の黒沢通信の皆さん約80名が、1月から2月にかけて4班に分かれて花工房に来てくださり、交流館もりもりでのうどん打ち体験をされました。

黒沢通信様は、伊達市保原町(今の富士通)で操業されていたという御縁で、この東日本大震災で被災した伊達市に何か支援したいとの思いから、おいでくださったそうです。

なれないゴザのうえで、正座しながらのうどん打ちに、悪戦苦闘。でも、講師の高野和子さんから月館弁で「もうちつとだがら、がんばらんしょ」と励まされ、コシのあるおいしそうなうどんが出来上がりました。東京に戻ってからお召し上がりいただいたうどんのお味は、いかがだったでしょうか？

また、暖かいお花の季節にも遊びにいらして下さい。



黒沢通信様・うどん打ち体験



田畑を守る里山のガードマン

花工房のランチはご家族、お友達、営業マンといろいろな方がご利用になります。

寒い中、山林に入り、増えすぎたイノシシやイノブタを駆除されている月館獺友会の皆さんです。冷え切った体を花工房のランチで温め、売店の甘いおやつで疲れを取り、また駆除に向かわれました。お疲れ様です。また温まりに来て下さいね。お待ちしております。



月館獺友会様

宝石のような笑顔で

県内外の選手との交流と福島を元気にする目的とし「第1回Jewell COP 新体操選手権大会」が去る3月9日(土)・10日(日)にかけて保原小学校アリーナで開催されました。apricot新体操クラブ様(茨城県)と聖和学園高等学校様(宮城県)、主催のNPO法人総合体操クラブJewell様に共に



apricot新体操クラブ様とNPO法人総合体操クラブJewell様

白銀サミット

「第2回地域に飛び出す公務員を応援する首長連合サミット」が福島県伊達市で開催され、その前夜祭で椎川忍様(元・自治財政局/現・地域活性化伝道師)の退任祝いを兼ねて全国から集まった参加予定者の方々が泊りになりました。

一面銀世界となったつぎだて花工房前にて写真撮らせていただきました。



首長連合サミット事務局様

ネットを飛び出し星空散歩

「星見会@つぎだて花工房」は、ツイッターという短文投稿サイトでの呼びかけで実現した観望会です。昼間は、「川俣シャモ」と保原の「豆っ子もちもち」のコラボ鍋をみんなで作って味わい、思いがけなく「おのろけ」になつてしまった「月館の農家の話を聞く会」で地元の方とふれあいました。メインの星見会は、強風と雲が多めの空でしたが、東の間の星空散歩を楽しみ、国立天文台の大石雅寿先生の講演で、広大な宇宙の旅を満喫しました。



星見会@つぎだて花工房

ご案内

- 宿泊…1泊2食 6500円～(お一人様)※部屋割りの人数と料理のコースによって料金が変わります。
- 水無月会席 6月19日(水)～21日(金)の3日間
- 花なごみコース(3名様～6名様プラン) 個室休憩+入浴+和食膳 5,250円(税込・お一人様 飲物代別料金)※要予約
- ランチ営業時間 11:30～13:30

花々通信

厳しかった冬もようやく終わり。ウグイス、キジ、フクロウ：様々な鳥達も春を歌い始めました。庭先や畑の梅が甘い香りを漂わせます。少しずつオオイヌフグリの青いじゅうたんが広がり始めます。枯野をポツンポツンと若々しい黄緑色が彩ります。今年もフキノトウが始めました。

定番の調理法はフキ味噌に天ぷらといたところでしょうか。口に入れた途端に広がる独特の香りと苦味が、冬の、眠っていた身体を目覚



めさせてくれます。山菜は里山の文化とも言えます。毎年心待ちにしている人も少なくありません。長く楽しむための保存法も発達しました。

その他にもセリ、コゴミ、ワラビ、タラノメ：枚挙にいとまがないほど多くの野草・山菜を私たちは食べついできました。また、それを採るために野に出、山に入ること自体が娯楽となっていました。山菜の文化というのは食べるだけでなく、そういうこともひっそり続けていること

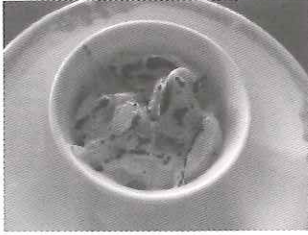
です。人々は生活環境にあった様々なものを利用して暮らして来ました。その中で多くの文化を紡ぎだしてきました。食文化もその中の一つです。原発事故はそうして連続とつないできたさまざまな文化を、被害を受けた人々の日常とともに奪い去ろうとしています。一つの料理にさえそれが成立し、

長い間受け継がれてきた背景には無数の人々の営みがあるはずで、これを簡単に手放してしまつていいものかどうか。それを手放さないことによる健康上のリスクは、それを手放すことによる利益を果たして上回るのか。まだまだ検討も議論も足りていません。

長い食文化の中にいきなり飛び込んできた放射能の問題。シーベルトやベクレルといった単位感覚を、私たちはまだ実感として持てていません。それをモノサシとして身に付けることができたとき、新たな文化を私たちは獲得するのかもしれない。



季節の一品 そら豆のグラタン



〈材料〉2人分

A そら豆……………500g
(茹でて薄皮剥いておく)
塩・コショウ……………少々
粉チーズカミックスチーズ……………適量

〈Bホワイトソース〉

小麦粉……………45g
塩・コショウ……………少々
バター……………60g
豆乳……………500cc

〈作り方〉

- ①Aの茹でたそら豆半量を荒目にすりつぶしてペーストにする。
- ②Bのホワイトソースを作る。
(1)鍋にバターをいれ、溶かす。
(2)バターが溶けたら小麦粉を入れ、弱火で混ぜ込む。
(3)滑らかになったら、豆乳を入れ焦げないように混ぜる。
(4)全体的に混ざったら、塩・コショウで味を整えて好みの硬さになるまで混ぜて完成。
- ③器にバターを塗り、ペーストにしたそら豆とBのホワイトソースを混ぜ、残りのそら豆を入れて粉チーズカミックスチーズをお好みの量をのせ、焼く。
※今回は豆乳を使いましたが、牛乳でもおいしくできます。
※お好みで玉ねぎみじんやベーコンなどを入れても。(その際は良く炒めてください。)

まだまだたくさんのおいしいお料理を準備しておりますので、是非足をお運びください。

春の山菜をメインに福島の食材を用いて季節感あふれる内容となっております。切干大根、こんにやく、凍み豆腐を鯉の煮汁で炊いた煮物、山菜を使ったサラダを自家製胡桃ドレッシングで召し上がられ

今回からつきたて花工房厨房よりおすすめランチとお膳のご紹介をいたします。
〈HANAランチ〉
春の食材をふんだんに使った、パスタをメインに、サラダ、ラスク、特製デザートセットにしてご提供、平日のみの限定メニューになります。
〈おすすめお膳〉
春の山菜をメインに福島の食材を用いて季節感あふれる内容となっております。切干大根、こんにやく、凍み豆腐を鯉の煮汁で炊いた煮物、山菜を使ったサラダを自家製胡桃ドレッシングで召し上がられ

花暦

はなこよみ

花工房とその周辺で見られる花を、ご案内します。
(開花時期は目安です)

◆女神山のカタクリ

「4月中旬～下旬」
女神山の頂上付近に群生、可憐な花を楽しむことができます。七ツ森林道から徒歩で30分ほど。

◆天王山のゴブシ

「月館町糠田地内」〔4月中旬〕
白い花をたわなに咲かせる大木です。地元の方が遊歩道を整備しています。花工房より車で5分ほど。
「4月中旬～下旬」
花の時期になると町はあちこちで桃の花のピンク色に染まります。

◆駒ザクラ(川俣町)〔4月中旬〕

川俣町秋山にあるエドヒガンザクラの大木。株元にはカタクリも。花工房より車で15分ほど。
◆あじさい(あじさいの小径)
「6月下旬～7月中旬」
地元の方によつて手入れされているアジサイが続く道です。花工房より車で5分ほど。

◆(花工房を彩る花々)

◆ヤマツツジ「4月下旬～5月上旬」
施設内の里山林床に自生するヤマツツジの赤と新緑の淡い色とのコントラストが鮮やかです。

◆ポピー「5月下旬～6月上旬」

眺めのよい丘に咲くポピー。記念写真のバックにも。真のバックにも。

◆バラ「5月下旬～6月上旬」

50種類近くのバラが色とりどりの花を咲かせます。種類によって香りも楽しめます。

◆ラベンダー

「6月下旬～7月中旬」
交流館もりもり下の土手に2000株ほど。清々しい青と香りをお楽しみください。



◆「チョコ募金」あしたの「チョコレート」に感謝いたします

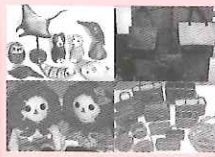
交流館もりもりに設置されている食品放射能測定器をご提供いただいた「アーユス」様との橋渡しをしていただいたNPO法人・JIMINET(日本イラク医療支援ネットワーク)様からの「イラクシリアと福島の子どもたちを支援するための募金に協力してほしい」との声にお応えし、花工房スタッフと花工房を訪れるお客様にご協力いただき、皆さまの善意を3月15日にお渡しすることができました。ご協力いただいた方にはイラクの子どもたちが院内学級で描いた、素敵なカード付きの、缶入り六花亭チョコレートをプレゼントしました。なお、皆さまにご協力いただいた募金はイラクの小児がんの子どもたち、シリア難民の妊産婦支援に、また福島の子どもたちを放射能から守る活動に充てられます。
(http://www.jim-net.net/choco/)

第4回 モノ作りびとフェアinつきだて花工房

5月25日(土)・26日(日)

雨天決行(雨天時はすばく月館が会場となります)

第4回
モノ作りびとフェア
in つきだて花工房
5/25・26
10:00～16:00 16:00～17:00
ポピー、バラの咲き誇る丘で
陶器、木工、皮芸、ガラス工芸など
全国から腕自慢のクラフト作家が大集合！
会場：つきだて交流館もりもり
(雨天時：屋内ゲートホール増すはく月館)
駐車場：月館農村広場(無料)
イベント
フリーマーケット(期間：5/25～26) 10:30～14:00
モノ作りびとフェア実行委員会事務局(5/25 10:00～
月館・伊達市の「らまいもん」販売(11:00～15:00)



会場：つきだて交流館もりもり(駐車場あり：月館農村広場)
主催：モノ作りびとフェア実行委員会
共催：一般社団法人つきだて振興公社 伊達市月館総合支所

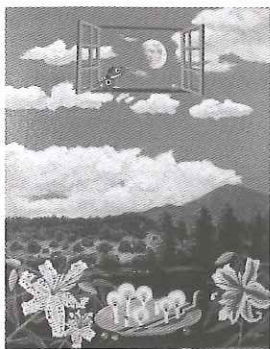


月館町在住のクラフト作家「空とぶくじら」の三森修一さんと「工房ゆあさ」の湯浅寿夫さんが中心となって始まったクラフト展は今年4回目の開催。陶器、木工、布、アクセサリなど、全国から約60組のクラフト作家が集まり、自慢の作品を展示・販売します。

パルーンアートの無料体験や地元の食が集まる「らまいもん」コーナー、そしてビッグバンド・ファジーネーブルの「ジャズのゆうべ」も開催。

ポピーやバラなど初夏の花も見頃を迎えるこの時期、さわやかな初夏の一日をモノ作りびとフェアでお過ごしください。

お問い合わせ：モノ作りびとフェア実行委員会事務局(つきだて交流館もりもり内)
電話 024(571)1777
HP <http://monozukuribito.com/>



「月とやまゆり」山中宏一様画

池田謙様 増田忠雄様
上江洲時子様 山中宏様
岡崎曠敬様 角川則光様

●東京都在住の上江洲様が窓口になつて下さり立教大学セカンドステイジ大学サポートセンター(かがやきライフ研究会)の皆さまより福島島の明るい復興に向けてのエールとして絵画をいただきました。題名は「月とやまゆり」(山中宏様画)。携わってくださいました方々をご紹介します。



「光彩」斎藤義光様画

●旧月館町糠田地区ご出身の斎藤義光様より2回目の3月11日を前に「あきらめない負けない福島」「ふるさと福島」の復興を心より願つてのお言葉とともに油絵をいただきました。

絵画二題

一般社団法人 つきだて振興公社 随時会員募集中

年会費
個人 3,000円
団体・法人 20,000円
※入会いただきますと
会費相当分の施設優待券を進呈。
お問合せ、お申し込み
つきだて花工房
(024-573-3888
担当:山崎)



朗読セミナー 受講生募集
発声・話し方アクセント・伝える方法・表現方法を俳優ナレーターとして活躍中の島岡安芸和先生のレッスンで学びます。
日程：6月2日(日)午後1時～午後9時、3日(月)午前9時30分～午後5時
講師：島岡安芸和先生(ナレーター)
参加費：4,000円(テキスト代を含む)

朗読セミナー 受講生募集

あの方へ、あなたの心を絵に託して

絵手紙教室 受講生募集

講師：和田恵秀先生(切り絵画家)
日程：5月13日、6月17日、7月22日(全て月曜日)
時間：午前10時から12時
受講料：1,000円(1回ごと)



菅野洋子様(川俣町)

木もれび 47号 プレゼント

「はな職人」の可愛らしいボードを3名様にプレゼント



新商品の売店の

官製はがきに住所・氏名・年齢と木もれび47号で印象に残った記事及び感想等をご記入の上、プレゼント応募券を貼つてつきだて花工房までお送りください。平成25年6月30日の消印まで有効です。ご記入いただいた個人情報はずきだて花工房が責任をもって管理・保管し、当館のご案内をお送りするほか、サレバ向上のために利用させていただきます。

編集後記

●ブログの更新もままならないのに編集長をせよとの命が。「ハハッ」とひれ伏したきり起き上がりません。(顕治)

●寒い冬を乗り越え花工房の花が今年も咲きました。職員で手入れをして、四季折々の花を見にいらして下さい。(幸子)

●我が家の軒下で雨も降らない場所なのに、毎春必ず芽を出すフキノトウ。なんかすごいな。(厚子)

●命の息吹を感じる季節となりました。茶色かった山々ももうすぐ新緑の匂いに包まれると思うと少しワクワクしますね。(朋広)

ムーンセラピー 月の明かりで疲れた心を癒したい。いますぐカレンダーにチェック!!

満月の夜 4/26(金) 5/25(土) 6/23(日)
新月の夜 4/10(水) 5/10(金) 6/9(日)

※休館日 4月16日・5月14日・6月18日・7月16日(全て火曜日)

木もれび47号 読者プレゼント 応募券